

教科書の調査研究報告書

校 種	教 科	教科用図書目録に搭載された教科書総数	本報告書の総 ページ数
小学校	国語	5	3

調査研究の観点及び各教科書の特徴

観 点 発 行 者	基礎・基本の定着	学習方法の工夫	内容の構成・配列・分量	内容の表現・表記	言語活動の充実
2 東 書	<p>○各単元に扉があり、単元の目標、具体的な目標、作品の挿絵と読者への投げかけを掲載している。</p> <p>○「てびき」で、学習の具体的な視点と方法を例示している。また、「言葉の力」として、基本的な学習事項を明確に示している。(2学年以上)</p> <p>さらに、「ひろがる」の中で、国語で学習したことを活用する際に大切なことを示している。</p> <p>○伝統的な文化に関する内容については、春夏秋冬ごとに「日本語のしらべ」を掲載している。</p>	<p>○保健だより・広告と説明書・新聞記事・投書など生活に即した複数のテキストを読み比べることで、目的や意図に応じた述べ方の工夫を読み取る説明文単元を設定している。(2学年以上)</p> <p>○各学年の冒頭に、課題解決的な学び方を示す「国語の学習を進めよう」と、一年間の学習を見通すロードマップ「どんな学習をするのかな」を設けている(2学年以上)。</p> <p>○学んだことを振り返り、その後の学習に生かすノート作りの具体例を「国語ノートの作り方」として全学年で示している。</p>	<p>○年間9単元。(1学年は5単元下巻のみ)</p> <p>○第1学年～第4学年までは上下巻の2冊構成である。</p> <p>○おおむね上巻では一つの領域に集中して学習する単元を配列し、下巻は各領域の学習を組み合わせ、総合的に展開する単元を配列している。</p> <p>○発展的な内容の扱いは、本編と関連させて、複数の読み物を掲載している。各学年一・二物語教材。(8～26ページ程度)</p>	<p>○巻末資料として説明文や物語、伝記など多数掲載している。</p> <p>○巻末に今年と前学年の言葉の力のまとめや活用例が「話す・聞く」「書く」「読む」に分けて示してあり、学年のつながりや違い(成長)を明らかにしている。</p> <p>○目次の後に、学習の進め方(つかむ、取り組む、振り返る、広げる)を示している。また、「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域に分けどんな学習をするのかを1年間の見通しができるように提示している。</p>	<p>○報告文では全学年のつながりを明記し、モデルとなる作品を1～2ページにわたって紹介している。</p> <p>○ほとんどの学年で「詩」と「物語」を書く活動を系統的・計画的に位置づけている。</p>
11 学 図	<p>○各単元の冒頭で目標を一文で示している。</p> <p>○「学習のてびき」では、学習の流れに沿って、発問に当たる投げかけの言葉がシンプルに並んでいる。読解のプロセス(全体把握→全体把握を経た深化)とそれを活用して表現する言語活動の3段階のステップを示している(全学年)。</p> <p>○「国語のカギ」で、各単元にお</p>	<p>○猫のひげやスカイツリーなどを題材とした説明文や、地域行事や見学したことの報告文を書く活動など、身近な話題や地域・社会に即した学習活動を設定している(全学年)。</p> <p>○各学年冒頭に、詩に続いて「学級作り」のページを設け、関わり合う学習集団の形成を意図している(2学年以上)。</p> <p>○「読むレッスン」として脚間付きのプレ教材を設け、本教材との重ね読みや比べ読みをすることで、読みの技術と読みの姿勢のステップア</p>	<p>○年間12単元。(1学年は8単元、2学年は15単元)</p> <p>○上下巻の2冊構成である。</p> <p>○一つの領域に集中して学習する単元と、各領域の学習を組み合わせ、総合的に展開する単元を配列している。</p> <p>○発展的な内容の扱い方</p>	<p>○1学年の国語上の教科書で、動物の顔を指でおさえながら開けるページがある。</p> <p>○巻末の資料に「言葉のカギ」として「話す」「聞く」「読む」の観点に分けた学習のまとめがある。特に「話す」ことを重点的に示している。</p> <p>○巻末に「保護者のみなさまへ」として、この教科書で目</p>	<p>○物語「これであなたも作家になれる」(4学年下)脚本「人物を生き生きとえがき出そう」(5学年下)「ぼくの・私の物語作り」(6学年下)など、児童の興味関心を引くような題材とし、その書き方を詳しく説明している。</p>

	<p>る学習のポイントを示している。</p> <p>○2学年で、線引きとぬき書きの仕方を示し、3学年で引用の仕方を説明するなど、よりよく読み、よりよく書くための手だてを系統的に掲載している。</p> <p>○「言葉のきまり」では、助詞や接続詞、主語と述語などの文法事項を繰り返しまとめている。</p>	<p>ップをねらっている（中・高学年の説明文と5学年下巻の物語）。</p>	<p>は、本編と関連させて、複数の読み物を掲載している。各学年一・二物語教材。（4～14ページ程度）</p>	<p>指す力の説明がある。</p> <p>○説明文は、説明をフォローする写真や絵を多数示している。</p>	
15 三省堂	<p>○各単元の冒頭に目標を一文で示している。</p> <p>○角書きで学習のねらいを示し、それに対応した学習過程を学習の手引きで具体的に示している（全学年）。また、「読むこと」の手引きでは、考える視点を吹き出しにして示している。「覚えておきましょう」に各単元で学ぶポイントをまとめている。</p> <p>○伝統と文化に関する内容では、5・6学年で、俳句や短歌を作って句会や発表会を行うという活動例を示している。</p>	<p>○国語辞典（2学年～6学年）や漢字辞典の活用に関する教材（3学年以上）を系統的に配列している。</p> <p>○学年の冒頭に、「声に出して読もう（詩）」「お話を聞こう」「図書館へ行こう」の学習を系統的に設定（2学年以上）し、音声言語による学び合いや主体的な図書館活用を促している。</p> <p>○見開き2ページ「プラザ」では、絵や写真を手がかりに「話す・聞く」または「書く」活動を仕組んでいる（全学年）。</p> <p>○夏休み前の読書への誘いとして「あまさんの部屋」を設定している（2学年以上）。</p> <p>○学年冒頭に「○学年で学習すること」を領域ごとに示し、一年間の学習を見通せるようにしている（2学年以上）。</p>	<p>○1学年5単元（下巻のみ）。2学年・6学年11単元。3～5学年10単元。</p> <p>○一教材一領域にねらいを焦点化して配列している。</p> <p>○1学年のみ上下巻の2冊構成。2学年以上では、全ての児童が行う学習と、個に応じた発展学習として使用する「学びを広げる」の2冊構成である。</p> <p>○発展的な内容の扱い方は、本編と関連させて、複数の読み物を掲載している。各学年一・二物語教材。（2～26ページ程度）</p>	<p>○巻末の既習漢字の配列が五十音順ではなく、学年ごとである。また、次の学年で学ぶ漢字も取り上げている。単元後に、新出漢字の書き順を示している。</p> <p>○巻末資料で、3領域に分けて単元で身につけておきたいことをまとめている。</p> <p>○5学年の古文の場合、古文の隣に現代語訳を色つき文字で書いている。</p>	<p>○「はがき・手紙」の書き方について1学年から4学年で取り上げ繰り返し説明している。</p> <p>○全領域の教材の最後に「わたしの本だな」のコーナーを設けて、学習を日常の読書活動へつなげるようにしている。</p>
17 教出	<p>○各単元の冒頭に目標を示し、より具体的な目標と合わせて表示している。</p> <p>○「読むこと」の「てびき」では、①読みの視点、②発表例を示している。多様な考えを引き出せるよう、発表例を2例以上提示している。「ここが大事」で、その単元の学習のポイントをまとめている。</p> <p>○伝統と文化に関する内容では、教材を鑑賞するだけでなく、短歌や俳句を児童が作る活動を取り入れている。5学年では児童が作った俳句や短歌も掲載している。</p>	<p>○各学年冒頭には、詩の学習に続いて、「話すこと・聞くこと」の学習を設定し、伝え合いへの意欲向上を意図している。</p> <p>○第一単元の物語文教材において、「読んだことをもとに書く」活動目標を掲げているのが特徴的である（2学年以上）。</p> <p>○楽しく学習できるように、1学年入門期の挿絵の穴あき加工や2学年下巻末のペーパーサートとポップアップの付録などがある。1学年の読書活動では、観音開きを開くとさまざまなお話の世界が広がるようなしかけがある。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、学びのステップを図式化して示している（全学年）。</p>	<p>○1学年10単元。2学年16単元。3・4学年17単元。5学年14単元。6学年15単元。</p> <p>○上下巻の2冊構成。</p> <p>○一つの領域に集中して学習する単元と、各領域の学習を組み合わせ、総合的に展開する単元を配列している。</p> <p>○発展的な内容の扱い方は、本編と関連させて、複数の読み物を掲載している。4学年下～6学年一物語教材。（2～18ページ程度）</p>	<p>○巻末の付録にこの本で学ぶことを3領域1事項で簡潔に示すと同時に、学ぶ言葉（引用、推敲等の言葉）もそれぞれの領域ごとにまとめている。</p> <p>○漢字ノートの書き方例を示している。</p>	<p>○報告文を書く活動の題材を多く取り上げている。参考となる例文や書き方の手順を説明している。</p> <p>○全学年を通して、様々な読書の場を設定している。</p>

38 光 村	<p>○各単元の冒頭に目標を示している。リード文に具体的な学習の観点を二文で示し、何をどのように学習していくのか（言語活動）を示している。</p> <p>○「読むこと」の「てびき」では、①読みの視点、②発表例を示している。「たいせつ」で身につけたい力を示している。</p> <p>○伝統と文化に関する内容は、「声に出して読む」「聞いて楽しむ」ことを中心に、単元数・ページ数とも豊富に掲載している。また、2学年以上では、「季節の言葉」として、季節を感じる言葉や俳句を紹介している。全学年、昔話を聞いて楽しむ単元がある。</p>	<p>○定評のある文学作品、現代社会や自然等に目を向ける文章など、関心をもって読む教材が充実している。</p> <p>○各学年冒頭に、緊張をときほぐす「言葉の準備運動（話すこと・聞くこと）」を新しく設定している（2学年以上）。</p> <p>○1学期説明文単元は、見開きで文章構成を学ぶ第1教材と、学んだことを活用して読む第2教材のセット構成である（3学年以上）。</p> <p>○既習事項の確認と継続学習を示唆する「いつも気をつけよう・続けてみよう」を巻頭に（2学年以上）設けている。</p> <p>○学年末に、1年間を振り返ったり今後の自分について考えたりしたことを書く小単元を設けている（全学年）。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」単元は3ステップ、「書くこと」単元は4ステップの「活動の流れ」を示し、そのうち、活動の重点を色を変えて明示している。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動のゴールのイメージを、発表例や作例で具体的に示している。単元末に設けた「ふりかえろう・いかそう」には、学んだことを振り返り、他教科や日常に広げていく観点を示している。</p>	<p>○1学年10単元。2学年13単元、3・4学年11単元。5・6学年9単元。</p> <p>○1学年～4学年までは上下巻の2冊構成。</p> <p>○5・6学年は、学年1冊の教科書で、中学校への移行を意識している。また、必要に応じて既習内容を振り返りながら学習できる。</p> <p>○4学年以上では、1単元複数教材・複数目標の複合単元である。読んだことを生かして、書いたり話したりする単元構成になっている。</p> <p>○発展的な内容の扱いは、本編と関連させて、複数の読み物を掲載している。各学年一ないし二教材。（3～23ページ程度）</p>	<p>○説明文では、写真や図表、グラフなど様々な資料を使用している。</p> <p>○単元後に振り返りポイントとチェック欄がある。</p> <p>○伝記の前に、筆者のメッセージを1ページにわたって掲載している。</p> <p>○巻末の資料として、説明文、物語、詩、和歌など多数掲載している。</p> <p>○目次のあとに、1年間を見通せるよう3領域1事項にわけて単元や活動を示している。</p> <p>○話すとき、書くとき、物語文を読むとき、説明文を読むときのポイントを示している。</p>	<p>○学習指導要領で示された言語活動例（手紙・報告文・物語・詩・随筆等）を、低・中・高それぞれの段階でバランスよく配置している。</p> <p>○全学年に「本は友達」という色着きページを設け、さまざまな言語活動につながる学校図書館等の活用法を示している。</p>
--------------	--	---	--	---	--